



高柄山ハイキング

2004年10月17日(日)「高柄山ハイキング」に出かけました。中央本線の四方津駅をスタートして、上野原駅に下るというコースで、歩行時間は約6時間という、久しぶりのロング・ハイキングです。しかも、エスケープ・ルート無し。

このところ、「山と××山ハイキング」は、山で満足してしまい、××山はカットされるケースが多いのです。たまには、昔のように(?)山にアタックするのもいいかも。

雲ひとつない秋晴れの中、緩やかに登り始めます。緩やかに上り、緩やかに下る快適なハイキングのはずでした。大丸山までは、予想通りの道のりだったのですが、ここから予想外のアップダウンが繰り返されます。それは、まるで標高650メートルでの沼津アルプス縮小版。いったい何回繰り返したことが(?)というアップダウンの末ようやく高柄山へ。ここからは、“基本的に下るだけ”のはずが、またまた、裏切られます。疲れもピークに達した残り4分の1で傾斜45度かと思われる登が続きまして。これにはウンザリ。

下山して、ひと言「なんてひどい山なんだ」でも、フルマラソンを走り終えた時に似た、達成感と満足感と開放感がやってきて、桂川の河川敷で乾杯！



桜井さん遅刻

朝7時30分、八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野勝彦さん、加藤忠さん、宮部忠和さん、横山和明さん、板垣実さん、大貫洋さん、町田行弘の7名、すべて男性でした。加藤さんの奥さんは、団地の掃除で、宮部さんの奥さんは、膝の不調でお休み。7時38分の高尾行電車に乗り、高尾で河口湖行に乗り換えます。あとでわかったのですが、桜井利子さんは、横浜線に1本乗り遅れ、八王子駅で中央線ホームへ移動したものの、7時38分の電車のドアは目の前で閉じてしまったのでした。桜井さんは、携帯電話で加藤さんに連絡したのですが、加藤さんは、呼び出し音を消していたので気付かなかったのです。

“歩きやすい道”でした

8時13分、四方津駅で下車します。改札を出て左へ行くと、“大地峠・高柄山登山道”と標識があり、それに従います。中央本線をガードでくぐり、左方向に道なりに歩きます。桂川を渡り、緩やかに登り始めたところに無人の野菜売店があり、物色。“大地峠”の標識に従って、右方向へ。しばらくすると、“大地峠・高柄山”の標識が左を指してして、坂を上ると、舗装路が終わり、駅から約30分、



ようやく登山道が現れました。一休みして、山道に侵入します。

歩き始めてすぐに、きのこ狩りのおばさんに会います。「りっぱなきのこですね」「下に男の人がいませんでしたか?」「いいえ、いなかったと思いますけど」そして、しばらく登るときのこを持った男性に会います。「奥さんが探していましたよ」

緩やかな傾斜の山道を気持ちよく進みます。“長丁場だけどこの調子なら大丈夫そう”登山口から30分、体温が上がってきたところで休憩を取ります。みんな「歩きやすい道ですね」町田もガイドブックの高低グラフを見ながら「御座敷の松まで登ればすぐに大丸山。ちょっとアップダウンがあって高柄山。あとは下りですから」と楽観していました。

比較的緩やかな上りと、平坦な道を繰り返しながら、歩くこと50分、“御座敷の松”に到着しました。ここは、武田信玄が鉾山開発のために訪れた際、休憩した場所で、当時は、立派な松があったそうです。かつての松は枯れてしまい、この、言い伝えを伝えるために新たに松を植樹してありました。武田信玄という人は、本当に山梨の誇りなんですね。



大丸山到着、ここまで来れば...

少しきつい上りで板垣さんが遅れるようになってきます。持病の糖尿病の影響があるようです。「気持ちは前へ行くんだけど、足が前に出なくて」低血糖になったためか、大貫さんから飴をもらって一休みします。しばらく進むと大地峠との分岐。大地峠は、右方向に下り、高柄山は直進なのですが、倒木で塞



がれていました。大きな木を乗り越えなくてはなりません。木をまたぐか、木を踏み越えるか？みんな四苦八苦。中でも宮部さんは足がひっかかり、木の上でバランスを崩し、加藤さんに助けられながら転倒してしまいました。みんなも本人も大笑い。

10時40分、大丸山に到着しました。標高770メートル。町田は、ガイドブックの高低グラフを確認して「ここまで来れば、下って上って下って上れば高柄山ですよ」少々お疲れの板垣さんは「下るってどのくらい？」660メートルまで」「ひえ～！そんなに下るの」「大丈夫ですよ。そんなにたいしたことはないと思います」



予想外、きついアップダウンの連続

高柄山へ向かって下り始めます。下りの勾配はかなり急で、しかも滑りやすく緊張します。長い下りのあと上り坂になり、再



び急な下り。それが、小刻みに繰り返されます。下って上って下って着くはずの“千足峠”はいったいどこなのか？ガイドブックの高低グラフはあまりにも大ざっぱだということに気がきます。これじゃあまるで「沼津アルプスハイキング」を標高650メートルあたりでやっているみたい。数えられないくらいのアップダウンの末、ようやく“千足峠”に到着しました。ガイドブックの高低グラフは大ざっぱだとわかっていても、“今度こそ20分上れば高柄山”と信じて歩き出します。しかし、やはり裏切られました。何度か下りがあるのです。もっとも、今までのような急勾配ではないのですが、下るとその分絶対に上りますから、損をした気分になってしまいます。

ここから3時間...

12時、やっとの思いで高柄山山頂に到着。ここまで、出会ったハイカーは、“御座敷の松”で追い越された中年夫婦だけで、すれ違うこともなかったのですが、山頂はそれなりに賑わっています。7名ほどの中年ハイカーグループと十数名の高校生のグループが食事をしていました。追い越された中年夫婦はいませんでした。大地峠へ向かったのかもしれませんが。当然、私たちもここで昼食にします。気持ちよい秋晴れは変わることなく、風もない絶好のコンディション。



食事を終え、小野さんが地図を確認しながら「ここから上野原まで3時間かかるんだ」とつぶやきます。町田も“結構あるな。でも、下るだけだから”とっていました。13時下山開始。



人の足なら

わりと歩きやすい下り坂が続く、“新矢ノ根峠”に到着した時、小野さんが左足の膝の上を痙攣しました。しばらくじっとして



いましてが治まらず、足を伸ばして座り込みます。後ろを歩いていた板垣さんが、「どれどれ」と小野さんの足の指先を小野さんの方向へ押します。「あ痛！ 治まった」「丸山ハイキング」で覚えた痙攣には塩と水、小野さんは持ってきたはずの塩を探しますが、見あたりません。横山さんが、昼食の時みんなにわけてくれたゆで卵の塩を出してくれました。落ち着いた小野さんは、「この人は、人の足だと思ってグッとやるんだよ。自分の足だと痛くてできないもん。人の足だからグッと」とみんなを笑わせます。



なんてひどいコースなんだ

ここから、下りの勾配は急になります。右手にゴルフ場の金網が現れ、ゴルフ場の音が聞こえてきます。急な坂を下りきると、枯れた沢の横を歩く緩やかな道も束の間、ジグザグの急勾配の登りが始まりました。すぐに終わると思ったら大間違い！ 延々と登っていきます。こんな上りはここでは予想外、「なんでこんなところで」「そんなバカな」「止めたいけど止めるわけには」「登りきった所で休憩します。」「まいった」まもなく「御前山への分岐」が現れ、薄暗い杉林のジグザグ下り。でもこれは歩きやすかった。その後、少々アップダウンを繰り返しながら、15時30分、上野原側登山口に到着します。「なんて、ひどいコースなんだ」と板垣さん。しばらく、未舗装の林道を歩き、舗装路へ。いつもだと、山道が終わり、アスファルトの道に出ると、固くて歩きにくいと思うのですが、舗装路がこんなにありがたく感じるとは。

酒と桂川と高柄山

桂川橋を渡り、駅手前のコンビニで缶ビールとにがり酒、つまみを買って、桂川の河川敷で打ちあげです。そこから、御前山の後ろに見える高柄山を眺め、「なんてデコボコな山なんだ！」なんて怒りをぶつけながら酒を飲みます。でも、なんて言うか、子供の頃、行けないだろうと思っていたところまで自転車で行って帰ってきた時のような、大人になって、初めてフルマラソンを完走した後のような不思議な満足感や達成感をあの山は与えてくれました。あぁ、おもしろかった！





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577- ホ -22-101 042-793-1271
大貫洋	194-0032	東京都町田市本町田 2533- 八 -1-307 042-792-1564

